

平成28年度 第2回学校関係者評価委員会議事録(要旨)

日 時 平成29年2月23日(木) 15:30~16:40

場 所 会議室

出席者 評議委員(3名)、母親委員会委員長、学校関係者(16名)

進 行 副校長

1 開会の言葉

2 校長あいさつ

・日頃からのご協力とご支援に感謝する。先ほど、3年生の学年集会で激励の言葉を述べてきた。生徒は文武両道で非常がんばっている。しかし、いろいろ抱えている生徒もいる。生徒が亡くなるということもあった。忌憚のないご意見をいただきたい。

3 学校概況

・総務

資料p3を説明、生徒アンケートで「交通ルールを守っている」が72%と低い。主に2年生で年度前半に自転車の接触事故等が複数あったことが原因と思われる。交通マナーがよくないという地域からの指摘もあるので、きちんと指導していきたい。

・教務課

資料p11を説明、来年度、観点別評価が始まる。

・生徒指導課

資料p11を説明、交通安全指導では、職員が危険な箇所の巡回等を行っている。自転車事故は今年度17件(夏までに14件)。いじめ対策、情報モラル教育は学校全体で組織的に取り組むことで指導しており、成果を上げている。

・進路指導課

資料p11を説明、自ら考えて動くことを意識付けしている。年6回の担任面談で信頼関係を築けたのが強みである。国公立大出願206件(昨年228件)私立大出願556件(昨年384件)東北6校会一東京大学出願21名(昨年22名)浪人生の出願14名、合計35名の出願は6校会で一番多い。

・厚生

資料p11を説明、清掃徹底をしてきた。

・総務

資料 p 1 1 を説明、新たな取り組みとして 1 0 月に防災講話、9 月にシェイクアウトを実施した。

・教育相談

資料 p 1 1 を説明、カウンセラーの活用が有効（生徒、親が活用）である。
また、担任のきめ細かい指導もあった。次年度、ケース会議ができればよいと思う。

・ S G H

資料 p 1 1 を説明、だいぶ認知されてきた。探究学習は、不可避の趨勢である。負担も増えるが意味がある。I L C の関連会議にも参加してきた。1 0 名の生徒がフィールドワークでボストンへ行く。順調であるが C E F R でもう少しレベルアップが必要である。

・ 1 学年

生徒一人を亡くした。生徒たちは、日常は落ち着いているが、時々、相談する生徒もいる。不登校生徒がいる。教育相談と連携して対応している。
皆勤は例年より多い。

・ 2 学年

一般的に中だるみの学年と言われるが、緩めずに指導している。
昨年から生活指導を徹底している。
前期末をもって、週末課題をやめた。
やらされる学習ではなく、自ら学ぶ姿勢を育成したい。

・ 3 学年

納得の受験指導を通した人格形成の指導をしてきた。
課外の日程・コマを減らした。（意図を伝えた）
センター試験後は、今まで以上に主体的な学習をしている生徒が増えた。
十分、生徒はがんばったと思う。

4 意見交換

○ S G H について

A 委員

S G H の具体的な効果は何か。

回答（SHG推進課）

GTECのライティングでは、SGH指定校ではない学校に比べて、4.4倍の伸びであった。研究活動の体験をすることで、研究活動に興味関心をもつ生徒が多くなった。

B委員

SGHについて、先日、2年生の日本語のプレゼンを見たが、いつ英語のプレゼンをするのか。

回答（SHG推進課）

来年6月に予定している。

○学習指導に関して

B委員

保護者として、先生方の指導に感謝している。休日は学校で学習している。底上げを図る指導に感謝している。

○生徒指導に関して

C委員

3年生が卒業後、一人暮らしの際、自分の身を守る指導も大事だと思う。

回答（厚生課）

薬物防止講話は本校でやっている、スマートフォンのトラブルは、小中学校で経験しているので、高校ではあまり起こらないと思う。消費者講座は必要と思われる。

B委員

小中高と進むにつれてと自己肯定感が低くなるのは、自分に厳しいからでしょうか。

回答（生徒指導課）

日本は、他に比べて低い。幼いときに自己決定の場面を与えられてきた人は自己肯定感が高いと言われている。諸行事を通じて、自分で決める、進路も自分で決める、教師は支えるという形を取っている。

C委員

自己肯定感と言っても、人によって規準が違うので、なかなか難しいものである。

○進路指導に関して

C委員

先生方が本当になんばっていらっしゃいます。

A委員

SGUへの進学数とはどういうことか。

回答（SHG推進課）

SGHの達成指標の一つである。

C委員

東大理Iを目指すのではなく、医学科を目指す傾向があるのではないか。

回答（進路指導課）

現在の3年生理系の多くの優秀な生徒は、東大理ではなく医学科を受験している。

B委員

東大推薦入学の状況はいかがか。

回答（進路指導課）

昨年1名受験、今年は0名。本校では、一般入試で合格を勝ち取る、という形を取っている。全国的にも、推薦入試を受験する学校が減っている。八戸高校の合格者は、種市出身の生徒であるが、大変優秀な生徒であり、様々な大会に出場していた。

○健康安全に関して

A委員

とても校舎がきれい。

C委員

カウンセラーと面談した内容は、教員も共有しているのか。

回答（教育相談課）

教員と共有している。

C委員

相談者はそのことを知っているのか。

回答（教育相談課）

知っている人もいれば、知らない人もいる。

○その他

A委員

SG課題発表は順位をつけるのか。

回答（SHG推進課）

ルーブリック評価を活用して、順位をつけている。上位は、大阪で行われるSGH甲子園等で発表する予定である。

D委員

子供が世話になっている。丁寧な指導に感謝している。生徒が一人亡くなって、親たちも動揺していた。学校がすぐカウンセラーの配置を文書で知らせてくれたことで安心した。自己肯定感は、型のあるものを行ってはいは、培うことができないと思う。少年院の子供た

ちは、型のある反省文は上手に書くが、好きに書いていいと言うとまったく書けない。自分の気持ちを適切にアウトプットできない。型のない文章を書かせるのが大切である。「おれって、生きていけるな」と思うことが大切である。

校長

何人東大に入るかは関係ないと思っている。東大の合格者の7割が関東圏といわれているが、どういう人物になっているかということが大切である。

将来、世界を引っ張る人物を作りたい。評議員の皆様には会議時のみならず、いつでも来ていただいてお話をしてくだされれば幸いです。

5 閉会の言葉